



こころの病を診るということ

私の伝えたい精神科診療の基本

青木省三＝著

本体 3,000 円＋税／A5 判・296 頁／医学書院／2017

今回は、以下すべて精神科関連の新刊を集めてみました。

臨床家として名高い著者が、自身の臨床哲学および具体的な診療の仕方についてまとめた実践書です。待合室での様子や問診票から読み取れること、問診の進め方、生活史のとりえ方、診断そして治療と、実際の診療の流れを網羅。約 40 年にわたる臨床経験で蓄積された理論と技術を、次世代の医療関係者に余すところなく伝授します。



子どものための精神医学

滝川一廣＝著

本体 2,500 円＋税／A5 判・464 頁／医学書院／2017

発達障害？アスペルガー症候群？知的障害？自閉症？ADHD（注意欠如・多動症）？LD（学習障害）？スペクトラムって何？——錯綜する診断名を「認識と関係の座標軸」のもとに一望する。社会・文化という軸のなかで子どもの精神障害を考える、児童精神医学の基本書。事例の機微をすくい上げる繊細な筆さばき、理論と実践の生き生きとした融合、そして無類の面白さ！マニュアルでは得られない「納得」がここに。

「実際編＋誌上メンタリング⑤“子育て”の不安」（p.1214・1220）と併せて読みたい。



発達障害のリハビリテーション

多職種アプローチの実践

宮尾益知、橋本圭司＝編

本体 4,500 円＋税／B5 判・280 頁／医学書院／2017

多くの職種が関わる発達障害者支援。各職種での支援のノウハウは蓄積されつつあるが、多職種間ではほとんど共有されていないのが現状である。幼児期から成人期までの幅広いライフステージに及ぶ発達障害者支援。本書では、発達障害者に関わる医療・地域・福祉・教育・労働など、多分野のさまざまな職種の取り組みを立体的に紹介。「多職種による連携」をキーワードに具体的支援方法を手引きする。

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.1291) にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



精神科レジデントマニュアル

三村 将＝編

前田貴記、内田裕之、藤澤大介、中川敦夫＝編集協力

本体 3,800 円＋税／B6 変判・352 頁／医学書院／2017

レジデントマニュアルシリーズに遂に精神科が登場！ シチュエーションに応じた対応のコツから、主要症候、疾患各論、諸問題への対応、他職種との連携まで、研修医や若手精神科医が現場で知りたい情報を具体的およびコンパクトに解説。臨床を重視する新専門医制度対策としてはもちろん、医療現場でこれまで以上の活躍が期待される心理職とのコラボレーションにも役立つこと間違いなし！